

# 健康相談室

あなたの相談に専門医がお答えします

耳鼻咽喉科



## 肥厚性鼻炎。レーザー治療を行ったが改善されない

55歳、男性。以前から鼻づまりがひどく、家族からいびきを指摘されています。耳鼻咽喉科で「肥厚性鼻炎」と診断され、数回レーザー治療を受けましたが、あまり改善されません。肥厚性鼻炎とはどのような状態なのでしょう。また、今後の治療法について教えてください。(神奈川県Y)



● 回答者

笠井耳鼻咽喉科クリニック  
自由が丘診療室 (東京都)

笠井 創

## A レーザー治療を数回行っても効果がみられない場合は、ラジオ波凝固手術を検討

鼻腔の側壁には3つのひだ(上・中・下鼻甲介)があり、このうち下鼻甲介が腫れているために慢性的に鼻づまりとなっている病状を「肥厚性鼻炎」といいます。

ではなぜ鼻閉がおこるのか、そのメカニズムを説明しましょう。

鼻粘膜には多くの動脈や静脈と毛細血管が流れているため、広がりたり収縮したりする特徴をもっています。通常、これらの血管は半分収縮して半分開いているような状態にあります。

そして、たとえば活発に運動しているようなときには、鼻呼吸がしやすいことをご存じでしょうか。活発にからだを動かすと、アドレナリンが増加します。アドレナリンは鼻の血管を収縮させ血流を少なくします。その結果、鼻粘膜は収縮して鼻呼吸が楽にできるようになります。一方、アレルギー反応がおこったり、かぜにかかったりすると、血管は膨張して血液がうっ血し、鼻はつまり、鼻呼吸ができなくなります。

次に、下鼻甲介の粘膜炎腫(腫れて炎症がおこる)の原因としては、①アレルギー性鼻炎、②慢性副鼻腔炎(蓄膿症)、③血管運動性鼻炎、④鼻粘膜収縮用点鼻薬の使いすぎ、⑤甲状腺機能異常、⑥精神的ストレス、⑦妊娠、⑧ある種の血圧降下剤、⑨香料やタバコの煙による刺激、などさまざまです。

鼻腔内の構造的な異常によっても鼻閉(鼻づまり)がおこります。それが、左右の鼻腔を分けている鼻中隔が湾曲している「鼻中隔湾曲症」です。

これに伴って下鼻甲介が腫れます。このように鼻閉は、多種多様な疾患が原因となっておこります。耳鼻咽喉科では、原因疾患を診断したうえで治療を行います。いろいろな原因でおこる鼻疾患の初期には、鼻閉は一時的であ

### ◆下鼻甲介の高周波電気凝固治療

高周波電気凝固治療(ラジオ波手術)は、外来でできる手術法で、肥厚性鼻炎のほか、慢性副鼻腔炎で鼻茸が鼻腔を閉塞しているようなケースにも行われる。写真は、レーザー治療を3回施行後にも残る下鼻甲介の腫脹に対して行った高周波電気凝固治療の治療前、治療後の様子。



治療後(術後2カ月)  
腫れが改善され鼻閉も解消された

治療前  
下鼻甲介の粘膜が腫れ、鼻閉の状態

り、原因が解決できれば回復します。しかし、長期間その原因がつかず、血管は収縮する能力を失って、静脈瘤のように血液が停滞し、慢性肥厚性鼻炎の状態になります。肥厚性鼻炎による鼻づまりに対して、外来で安全に行える手術的治療方法として、レーザーによる下鼻甲介粘膜焼灼手術と高周波電気凝固治療(ラジオ波凝固装置による粘膜下凝固手術)があります。高周波電気凝固治療は粘膜の深い層に作用するため、レーザー治療で鼻閉が改善しなかったケースにも効果が期待できる治療法です。